

認められるために実践すべき方法

初めてのこと、自信がないこと、誰でも不安になって当然です。しかし、消極的になっては誰も認めてはくれません。“積極的に仕事をして即効一人前になる姿勢を見せる”のが、周りに認められるコツだと思います。林業で大きな失敗をすると命を落とし兼ねません。それだけは防ぐために、小さな失敗を改善していき、怪我をしないきこりになることを目指しましょう！全ての職業にも当てはまる内容です。(TOYAGAKUTO BLOGさん資料 参考)

わからないことは聞く わからないことは恥ずかしくはありません！ わからないままにしておく方が恥です！ 見て盗むことも大事！	教科書や参考書で勉強 自ら基本を学び、それでも分からなければ先輩などに聞き確認する。 機械の仕組みや作業内容を学ぶ時間も大切！	切れる刃を作る 切れる刃を目立てできることは、林業で働く上で仕事ができる・できないの大きな線引きです！	失敗を見せる 小さな失敗を積極的に見せて注意されるのが、怪我をしない、上手くなる秘訣です！
--	---	--	--

林業に関わる喜びと面白みを伝える

「人材量」が決定的に不足している林業。林業経営者、従事者は、林業業務の喜び、面白みを伝えられているのだろうか。就職した林業事業体を辞めてしまう人が増えています。どんな業界でも会社を変わることや転職することは当たり前なので、「珍しい」とは思いませんが、全国に林業大学校等が設立された背景にあるように、「人材量」が決定的に不足しているのは事実です。では何故、今林業で働いている人達は、“林業”を選んだのでしょうか。林業をどうしてもやりたくて就職した人はそれ程居ないと思います。ですが仕事している中で、どれだけのことを理解して業務しているのでしょうか。“日々目の前の業務に追われ、喜びや面白みなど感じない。”“ただこなすだけ。”という回答も。「確かに」と言ってしまうかもしれませんが、それだけの人生では寂しい。「林業は大変な仕事だ！」ということだけを業界が発信してしまうと、人は入ってこないし入っても辞めてしまうことに繋がってしまいます。国土保全のために森林管理は必要で、森林管理の実作業をするのは事業体で、事業体を構成するのは経営者と従業員で、経営者と従業員を動かすのは「幸せ」になろうとする動機だと思います。国土の7割を占める森林が日本の林業を作っているのではなく、林業事業体の経営者と従業員による活動が「林業」を生み出しています。林業の若い担い手を確保するためには、林業大学や事業体内の新人育成の教育を通じて、林業の喜びを知ってもらえるよう、お互いが努力することだと思います。

依田林業新聞

発行所

(有) 依田林業
塩山事務所
総務部

前向きになれる一言
やる気のある人はシンプルに考えとにかく動く
やる気のない人は難しく考え動くことを
先送りにする

負傷者が出た場合の対応	負傷者が出た場合 責任者の対応
負傷者の救護 ↓ 負傷者以外の参加者の安全確保 ↓ 二次災害を避けるため安全な場所へ移動する。 危険防止 ↓ 安全な場所へ移動する。 救急処置 ↓ 直ちに処置すべき傷病か、時間に余裕のあるものかを判断して処置を行い、処置後は悪化させないよう保温、体位などに注意する。 搬送 ↓ 救急車やレスキュー隊が近くに来られない場合は、搬送する。 引き渡し	周囲の状況と負傷者の様子の把握 ↓ 負傷者の人数と状況を正しく迅速に判断する。大事故の場合、生存者の確認をする。 救助に向かうか協力者を得るか判断 ↓ 自分たちだけで対応するのが難しい場合は、他の協力者へ連絡を取り、協力要請する。 救急車の手配 ↓ 場所と状況をできるだけ正確に伝える。携帯電話が通じない場所では、代表者が電波の通じる場所まで行って連絡を取る。 重大事故の場合警察へ連絡 ↓ 事故の記録をとる <small>事故発生日・場所・処置の内容と時間・負傷者の名前・住所・事故の状況と程度など記録しておく。</small>

- 危険予知の対策
想定できる危険を予知しておく
- ルール・マナーの厳守
決められた事項、道具の使用方法を守る
- 自分の身の安全は自分で守る
「自己責任の意識」を持たせる
- 安全が最優先
「勇気ある撤退」も含めて安全第一

安全管理のための方の